

公益財団法人
山口県ひとづくり財団 県民学習部
〒754-0893 山口市秋穂二島1062
TEL 083-987-1730
FAX 083-987-1760
E-mail yh-kengaku@hito21.jp
URL https://hito21.jp

支援員だより

研修会報告

日時 令和5年9月24日(日) 10:30~14:30
場所 萩博物館、北の総門周辺

「生物多様性の保全について」 吉田 愛氏
「一輪の花からミズアオイ再生の波紋へ」 草野 隆司氏
「ミズアオイを観察し、自生状況や環境等を学ぶ」

午前中は、県自然保護課の吉田 愛氏、樹木医の草野 隆司氏より講義を受けました。

吉田氏は、「希少野生動植物種の保護」、「外来種対策」の2点から山口県における取組を説明され、外来生物の「県内定着種・記録種」について紹介・注意喚起するとともに、生息や被害の情報提供を参加者に求められました。

草野氏は、レンコンの大産地であった萩市の様子を戦時下を含めた多数の写真を用いながら、地下で発芽待機していたと考えられるミズアオイの種子をどのように再生させたか、一年を通しての実際の作業を説明されました。

午後は、観察会場へ移動後、受講生が自由に講師と会話しながら観察を楽しみました。各々がじっくり観察対象と向き合うことにより、多くの発見や疑問を周囲の受講生と共有している姿が印象的でした。



日時 令和5年11月18日(土) 10:30~14:30
場所 山口博物館 別館2階講座室

「環境DNAという新たな調査手法のアプローチ その実践とノウハウについて」 後藤 益滋氏
「標本や文献からわかる希少野生動植物種」 田中 浩氏
「山口博物館の動植物収蔵庫見学」

午前中は株式会社リクテコンサルタントの後藤氏より講義を受けました。

後藤氏は、環境DNAに関する研究が機器や試薬の性能向上により急激に進み、これまで6~10日掛かっていた50km範囲の調査が1日で可能となったことや、実際のサンプル採集から解析までの流れ、DNA解析技術が活かされる分野について説明されました。その調査方法や可能性に参加者は高い興味をもち、アンケートにおいてもその熱心さが伝わってきました。

午後は山口博物館田中氏による講義、収蔵庫見学を行いました。

田中氏は、山口博物館について施設概要や事業内容を説明され、標本づくりが館内で行われていることに参加者のみなさんから驚きの声があがりました。その後、ギフチョウやイシドジョウのこれまでの調査について、種の絶滅を防ぐ重要性などについてお話しされました。

講義後の動植物収蔵庫見学では、普段、立ち入ることのできない場所ということで、移動中から参加者の高い期待感が窺えました。収蔵庫内は限られたスペースの中に膨大な標本がきちんと整理され、収蔵されており、参加者は驚きの声を上げながら、熱心に見学されていました。



周防大島町地家室園地拠点施設・環境省地家室園地休憩所が開所しました

国内最大規模の二ホンアワサンゴの群生地として知られる周防大島町に、令和6年1月19日（金）、周防大島町地家室園地拠点施設・環境省地家室園地休憩所が開所しました。

この施設は、未だその生態が解明されていない二ホンアワサンゴを始めとする周防大島町の自然・歴史・文化の学習拠点、地家室がある白木半島地区を中心とするエコツーリズムの活動拠点、新たな人の流れを創出して地域活性化を図るための交流拠点として整備されたものです。

施設内には、二ホンアワサンゴを飼育する水槽や瀬戸内海の魅力ある自然を紹介するパネルが展示されています。また、スマートフォンアプリを使って、あたかも海に潜って二ホンアワサンゴを観察しているような疑似体験（※令和6年3月31日（日）までの期間限定）もできます。

ぜひ、瀬戸内海の多島美を満喫しながら、周防大島町の自然に触れ合い、当施設にも訪れてみませんか。



地家室園地



地家室園地拠点施設



多目的室



学習展示室



屋外学習広場



二ホンアワサンゴ

【施設概要】

所在地：周防大島町大字地家室 709 番地 4（電話 0820-80-4020）

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：毎週水曜日

入館料：無料

駐車場：22台

主な施設

- 学習展示室……町内や周辺地域の自然・歴史・文化を紹介
- 水槽展示室……周辺海域に生息する二ホンアワサンゴの飼育
- 多目的室……二ホンアワサンゴや自然環境の研修や地域活動等のために使用可能
- 屋外学習広場……目の前に広がる海を見ながら休憩したり、学習の場として利用可能
- トイレ・シャワー……開館時間に限り利用可能